

平成21年度 強い水産業づくり交付金
(経営構造改善目標)事後評価結果について

整理番号	20-9	高知県	
メニューの内容	水産物荷さばき施設	(施設名)	ホイストクレーン
事業実施主体	十市漁業協同組合		
評価期間	平成22年度～24年度		
事業費	28,100 千円		
交付金額	14,050 千円		
成果目標	3年間の総便益	8,900 千円	
実績値	3年間の総便益	9,525 千円	
成果目標の達成率	107.0 %		
事業の目的	シラス漁の操業形態は、計画時は機船42隻が14統を形成し、1日平均3回の水揚げを行っていたが、現在は1統廃業し13統となっている。水揚げについては、高知新港に船溜まりはあるものの、港ではなく十市の海岸及び浜改田の仮設荷揚げ棧橋で行っていたが、荷揚げクレーンを高知新港に設置することで、荷揚げ時の安全面、水揚げ時の労力減少、水揚げ時間の短縮によるシラスの鮮度保持に有効であり、また、港内で運搬船や漁網の陸揚げを行えるようになることで経費削減が可能となる。		
事業の成果	荷捌き施設に荷揚げクレーンを設置したことで、荷揚げ時の安全面、水揚げ時の労力減少、水揚げ時間の短縮によるシラスの鮮度保持に効果を上げている。また、荒天時の浜への荷揚げが困難な場合でも、この荷捌き施設を活用することによって荷揚げすることが可能となり出漁日数が増加した。また、荷揚げクレーンの活用により、水揚げ時や漁網等の荷揚げに要する時間の短縮ができ、出漁日数の増にもつながった。		
その他特筆すべき事項	施設整備時のシラスの水揚げ場所については、十市の海岸及び浜改田の仮設の荷揚げ棧橋を主としていたが、平成23年度に台風被害によりこの棧橋が損壊したことにより、当事業で整備された高知新港荷捌き施設へ水揚げする必要性が高まった。現在は一部、浜への直接水揚げは残っているが、ほとんどのシラスの水揚げが当施設へ集約され、利用率が高まっている。		
成果目標が未達成(達成率が70%未満)の場合はその理由及び改善方策			
備 考	当施設が整備されたことにより、荒天時に浜への荷揚げが困難な場合でも、当事業による荷捌き施設を活用することによる荷揚げが可能となり、出漁日数の増につなげることができた。また、荷揚げクレーンの活用により、水揚げ時や漁網等の荷揚げに要する時間の短縮ができたことにより、出漁日の操業時間が増加したことによる水揚げの増加、水揚げ時間の短縮によるシラスの鮮度保持等にもつなげることができた。今後、より一層の当施設を中心としたシラスの水揚げの集約化を目指すには、シラス漁の漁獲～運搬まで、氷を活用して鮮度を保持することによる付加価値向上及び販路の拡大などに取組んでいく。		